

日本人における 妊娠女性の薬物服用についての調査

Nishigori *et al.* Drug use before and during pregnancy in Japan: The Japan environment and children's study. Pharmacy. 2017;5(2):21. doi: [10.3390/pharmacy5020021](https://doi.org/10.3390/pharmacy5020021).



【はじめに】

多くの薬剤は、妊娠中の服用によって妊婦と胎児に悪影響を及ぼすことが知られています。また、一種類では影響のない薬剤を複数使用することで影響が出ることもあります。しかし、妊娠中にどの程度の薬剤が使用されているのかは明らかではありません。そこで本研究では、日本全国の妊婦を対象にして薬剤の使用状況を調査しました。

【調査項目】

全国15か所のエコチル調査センターに登録した97,464名の妊婦を対象としました。面接で得られた回答をもとに、①妊娠診断前、②妊娠12週以前、③妊娠12週以降の薬物使用の情報を収集して解析しました。

【結果】

■妊娠前から妊娠中の薬物・サプリメント服用率

	妊娠診断前	妊娠12週以前	妊娠12週以降
薬物・サプリメントを1種類以上	78.41%	57.07%	68.84%
薬物のみを1種類以上	75.33%	36.02%	51.72%

半数以上の妊婦が薬物・サプリメントを1種類以上服用していました。薬物のみに絞ると服薬の割合は低下するものの、3割以上で服用がみられました。

■服用頻度の高い薬物・サプリメント

妊娠12週以前		妊娠12週以降	
葉酸	28.89%	葉酸	26.16%
解熱鎮痛薬	7.76%	子宮弛緩薬	15.21%
漢方薬	6.02%	解熱鎮痛薬	13.32%
子宮弛緩薬	5.11%	鉄剤	12.04%
ミネラル	4.92%	漢方薬	9.41%

妊娠と判断されてからの服用頻度が最も高かったのは葉酸でした。一方、服用が効果的とされる妊娠断前の葉酸の摂取は6.99%にとどまりました。



【この調査でわかったこと】

妊娠週の薬物使用に関する日本初の大規模な全国調査の結果、鉄分や葉酸などのサプリメントを除いた場合でも、日本の妊婦の高い割合が医薬品を服用していることが分かりました。妊娠中の薬物使用と先天異常の関係を解明するために、さらなる研究が必要だと考えられます。